

第3回 長野市都市計画審議会
長野市都市計画マスタープラン改定専門部会
議事録

日時：平成27年10月29日（木） 午後1時30分

場所：市役所第二庁舎 10階 講堂

長野市都市整備部都市計画課

第3回 長野市都市計画審議会

長野市都市計画マスタープラン改定専門部会 次第

日時 平成27年10月29日(木) 午後1時30分

場所 市役所第二庁舎 10階 講堂

1 開 会

2 あ い さ つ

3 議 事

審議事案(1) 「現況と課題の整理」

- ・現行MPの5つの目標からみた現況
- ・都市の将来予測と現況評価(都市構造評価他)

審議事案(2) 「都市づくりの理念・目標全体構想」の改定の方向性について

- ・考慮すべき社会潮流や課題の抽出
- ・理念・目標の改定部分の検証 ほか

審議事案(3) アンケートの実施について(報告)

4 そ の 他

5 閉 会

◎長野市都市計画審議会 長野市都市計画マスタープラン改定専門部会委員

- | | | | |
|-----|--------|------------------|---------|
| 1番 | 金澤玲子 | (ハウジングスタイリスト) | |
| 2番 | 酒井美月 | (長野工業高等専門学校) | 准教授 |
| 3番 | 清水秀幸 | (株式会社さくら都市総合研究所) | 代表取締役 |
| 4番 | 高木直樹 | (信州大学工学部) | 教授 |
| 5番 | 築山秀夫 | (長野県短期大学) | 准教授 |
| 6番 | 宮島章郎 | (長野商店街連合会) | 会長 |
| 7番 | 柳沢吉保 | (長野工業高等専門学校) | 教授 = 欠席 |
| 8番 | 相野律子 | (長野県建築士会長野支部) | 女性建築士委員 |
| 9番 | 小山英壽 | (長野市農業委員会) | 会長 |
| 10番 | 池内 功 | (会 社) | 員 |
| 11番 | 太田 亜矢子 | (会 社) | 員 |
| 12番 | 山浦直人 | (会 社) | 員 |

◎説明のための出席者

都市整備部長	轟	邦 明
都市計画課長	羽 片	光 成
都市計画課長補佐	飯 島	邦 夫
都市計画課係長	宮 下	伊 信
都市計画課主査	小 林	明 徳
株式会社 日建設計総合研究所	竹 村	登

◎事務局出席者

都市計画課技師	安 西	加 奈
都市計画課技師	石 坂	直 樹
株式会社 日建設計総合研究所	上 野	和 彦
株式会社 日建設計総合研究所	大 嶋	亜 澄

◎開会

○司会 ご案内の時刻となりました。本日はお忙しいところお集まりをいただき、ありがとうございます。ただ今から、第3回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます、都市計画課の飯島でございます。よろしくお願いいたします。本日は柳沢委員からご欠席とのご連絡をいただいておりますので、ご報告申し上げます。なお、当専門部会は、市の「市議会等の会議の公開に関する指針」によりまして、原則として公開で行い、会議結果の概要につきましても、市のホームページ等で公開することとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

◎あいさつ

○司会 はじめに高木部会長より、ご挨拶を頂戴いたします。よろしくお願いいたします。

○部会長 はい。それでは、皆様、第3回専門部会にお集まりいただきましてありがとうございます。後で細かい説明がいろいろ入ってきますけれど、このマスタープラン改定の専門部会はスケジュール的には平成28年1月か2月頃までの長丁場の専門部会ですが、パブリックコメントなどもあって、細かい修正の部分に結構時間が掛かります。ということで、今日の第3回の専門部会では、このマスタープランはどのような方向性を持って作っていくのか、将来の長野市のまちづくりについてどういう理念・方向性を持っていくのかということに関してのかなり重要な場になると伺っております。第1回、第2回はどちらかというところ勉強会的な雰囲気だったわけですが、今日からはそれが変わって、現況の問題点・課題点を把握して、これから長野市がどういう方向に向うべきかを議論したいと考えております。皆様が普段お考えのいろいろなことがおありかと思っておりますので、是非忌たなくお話しただいて、全体の方向性として「ある程度こういう方向性に行くといいよね」という方向性を今日見出せたらいいと考えておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。次に本日の資料を確認させていただきます。お手元の資料をご覧ください。まず、次第でA4判1枚です。次に資料（第2回追加）というA4判1枚です。続いて、資料1「現行MPの5つの目標からみた現況」というもので、A4判の冊子。続いて、資料2「都市づくりの理念・目標」というものです。資料3-1「市民アンケート調査について」というA4判1枚のもの。続いて、資料3-2アンケート用紙。最後になるのが、「長野市人口ビジョン（素案）」です。以上でございます。もし、お手元に無い方がいらっしゃれば、お申し出をいただければと思います。よろしいでしょうか。では、ここで前回第2回の専門部会の時に宿題になっておりました「人口ビジョン（素案）」の考察についてということで事務局からご説明を申し上げます。

○事務局 都市計画課の小林と申します。私からまず、本題に入る前に前回第2回専

門部会において「人口ビジョン（素案）」についてご説明をした内容につきまして、質問事項がございましたので追加のご説明をさせていただきます。お手元の資料（第2回追加）というA4判1枚の資料をご覧ください。また、前回は「人口ビジョン（素案）」の中より関連の部分の抜粋ということでご紹介させていただきましたが、先ほど飯島からも話がありましたとおり、「人口ビジョン（素案）」という形でお配りできる状態になってございますので、人口に関わる重要な資料になりますので、参考資料として委員の皆様にはお配りをさせていただいております。それでは、説明をさせていただきます。第2回専門部会の追加説明ということで、一番上の①。以前、委員から東京圏への人口の転出が2014年度が突出して他の年度に比べて大きくなっている、この原因についてどういことが考えられるのかといったご質問をいただいたかと思います。その時点では詳細について、まだ分析等ができておりませんで、その後分析をさせていただいた内容を報告させていただくものでございます。東京圏へ転出した人口が、前回はざくっと大きく841人と出ていたのですが、これを②の形で、人口を世代別に詳細に分けてみました。そうしますと、実は転出している所というのが、25歳から29歳の男性の部分が非常に多く転出しているということが分かりました。当初、15歳から19歳の学生が大きく転出しているのではないかという推察もありましたが、中を詳しく見ていくと、25歳から29歳という一番働いている世代の男性が2014年に多く出て行ったということでございます。この裏面を見ていただきますと、今度は③でございます。実は、こういった2014年に東京圏に出て行くという状況が長野市だけではないということが他の資料を見ても分かってまいりました。③では東京圏への転入超過数というのが、右肩上がり、景気が良くなって求人が良くなった東京のほうに人が流れていくという状況でございます。④は、今度は長野県。長野市ではなくもっと大きな枠で見ても、やはり東京圏に2014年に多く出ています。⑤は長野県内のもう一つの大きな都市の松本市の状況です。松本市でもやはり東京へ出ています。大きな傾向としてやはり東京への転出が2014年に景気が良くなってきて、多くなってきているということでございます。ただ、具体的に何が原因でという確定的なことというのは数値からでは想像ができなかったのですが、内容を詳細に見ていくと、こういうような形になっているという所までのご説明でお願いをしたいと思います。

○司会 以上ですが、よろしいでしょうか。

○部会長 何か今のご説明にご質問等がありましたら、よろしいですか。ありがとうございました。

○司会 次に本日の日程ですが、お手元の次第に従いまして、終了は午後3時30分頃を予定しております。よろしくお願いたします。これからの進行は高木部会長にお願いをいたします。それでは、高木部会長よろしくお願いたします。

◎議事

○部会長 それでは、議事の進行を努めさせていただきます。ご協力をお願いいたします。本議事録の署名人を毎回お願いしていますが、今日は酒井委員と池内委員にお願いし

ます。よろしくお願いいたします。では、次第の審議事項（１）現況と課題の整理ということで「現行マスタープランの５つの目標からみた現況」、「都市の将来予測と現況評価」について、事務局からの説明をお願いします。

○事務局 都市計画課の宮下です。私から資料１について説明させていただきます。資料のボリュームがありますので、各ページの概要を説明させていただきます。では、資料の１ページ目をご覧ください。「１．現行マスタープランの５つの目標からみた現況」です。現在の都市計画マスタープランでは、都市づくりの目標を五つ掲げています。この目標は、現行マスタープランの第２編第１章の２８ページから３２ページに記載されております。では、資料の現行都市計画マスタープランの都市づくりの目標をご覧ください。「目標１：歩いて暮らせる街にする」、「目標２：都市の資産を上手に使う」、「目標３：地域特性や歴史等を活かした特色ある都市文化を創造する」、「目標４：豊かな自然を尊重し環境負荷の低い環境共生型都市とする」、「目標５：地域が主体となって街を創り・育てる〔一人ひとりの参加による街づくり〕」の五つの目標があり、それぞれの目標の内容について、現況や今後の課題を整理し、都市計画マスタープランの理念・目標等の改定の方向性、内容について検討いたします。２ページ目をご覧ください。点線で囲まれている所をご覧ください。ここに「目標１：歩いて暮らせる街」の要点を点線枠内にまとめてあります。黒い丸を上から順番に読みます。歩いて暮らせるコンパクトで暮らしやすい生活圏（マイカー等に依存しない生活圏）。公共交通システムが整備された街にする。ユニバーサルデザインの街にする。この目標１は、すべての世代の人が快適に日常生活をおくることが可能な生活圏にしていくというものです。続きまして、目標１に関連する現況を説明します。①中心市街地、地域拠点周辺、郊外部、その他（中山間地）での交通手段では、地域別の交通手段を記載しております。市街地の長野駅周辺や篠ノ井など公共交通の利用がしやすい地区でも利用率は１から２割弱、自動車利用が５から６割です。また、郊外や中山間部では、自動車利用率が７割程であり、長野市での交通手段は、自動車を中心であることが解ります。続いて３ページ目をご覧ください。長野市の公共交通の現状について説明します。ここでの鉄道、バスの利用圏域の人口カバー率は、８４．４％となっております。この利用圏域の考え方は、本数や利便性が考慮していないものとなっております。続いて、４ページ目をご覧ください。基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率について説明いたします。先程のデータと異なり、基幹的公共交通路線としてバス路線の条件を一日に片道３０本のサービス水準を有する路線について人口カバー率で見たととなっております。表の上の部分ですが、４１．７％となっております。続きまして、５ページ目をご覧ください。公共交通による公共施設カバー率でございます。ここでは、鉄道、バス路線の沿線にある公共交通でアクセス可能な公共施設の割合を示しています。この公共施設とは、学校、病院、福祉施設、行政施設を示しています。こちらのカバー率は、約９割となっております。続いて、６ページ目をご覧ください。バス共通ＩＣカード「くるる」システムの導入など公共交通の利便性向上のための施策について記載しております。その下の③歩道

等の整備状況をご覧ください。歩きやすい街として、歩道・自転車道などの整備について、整備延長が記載されております。毎年概ね1km程整備が進んでいる状況になっております。続きまして7ページ目をご覧ください。ここに、「目標2：都市の資産を上手に使う」の要点を点線枠内にまとめてあります。黒い丸を上から、順番に読みます。都市のストック（道路、公園等の基盤、住宅等の施設）の活用。民間の活力やノウハウを活かした都市整備や管理。交通需要マネジメントの実施。土地や住宅の所有者とそれを活用したい利用者の橋渡し。この目標2は、今までに整備してきた社会インフラを利用し、住み・働き・訪れる人たちが安心して自由に活動し、憩えることのできる都市を目指していくことです。続きまして、目標2に関連する現況を説明します。①都市整備の状況について説明します。1)都市計画道路の整備状況と見直しの状況については、都市計画道路は、平成26年度までに、全体延長の約57%の整備がされております。都市計画道路の見直しについては、平成25年1月に見直し方針を示しています。今後も、土地利用計画と合わせた都市計画道路の見直しを考慮していくものです。続いて、2)都市計画公園の整備状況、こちらは整備率が58.31%となっております。3)土地区画整理事業の状況については、表をご覧ください。続いて8ページ目では、長野市都市計画道路整備計画(案)を示しております。続きまして9ページ目をご覧ください。4)再開発事業等の状況について説明します。市街地再開発事業は、既存の都市インフラを最大限利用するため、総合的なまちづくりを行うものです。長野市では、これまでに10地区5.7haを整備しております。今後、都市機能の誘導を図り拠点性を高めていくためには、このような市街地再開発事業等による拠点性強化が有効であります。事業環境や合意形成などの課題があります。続いて10ページ目をご覧ください。②公共施設の改修、更新について説明します。第2回専門部会で、行政管理課の担当者から説明させていただいた、公共施設マネジメントに関する記載となっております。点線で囲まれている処をご覧ください。公共施設マネジメントの四つの基本方針として「1.施設総量の縮減と適正配置の実現」、「2.計画的な保全による長寿命化」、「3.効果的・効率的な管理運営と資産活用」、「4.全庁的な公共マネジメントの推進の四つの基本方針が示されています。続きまして11ページ目をご覧ください。③民間活力の導入、公民連携は、一部の事例を示しています。今後のまちづくりの手法のひとつとして公共サービスの提供に民間の資金・ノウハウを活用していくものです。④リノベーションによるまちづくりについて説明します。先程説明いたしました市街地再開発事業は、街区単位の規模の大きなものですが、ここでは、蔵、古民家、倉庫などの遊休不動産を改修し、シェアオフィス・カフェなどに利用しているものです。善光寺門前エリアで、まちづくりをしている事例を記載しております。続いて12ページ目をご覧ください。ここに、「目標3：地域特性や歴史等を活かした特色のある都市文化を創造する」の要点を点線枠内にまとめてございます。黒い丸を上から、順番に読みます。地域ごとの特性を活かした独自のまちづくり。中心市街地などでの電線類地中化、良好な街並み形成。中心市街地など都市の拠点に人が集まり、賑やかで元気のある街にする。産業育成、地産地消の促進

による自立し活力ある街にする。この目標3は、自然・歴史・文化を活かした居住や交流を視野にいたした街づくりと、それを支えるコミュニティや人を資産として尊重するまちづくりを目指していくものです。続きまして、目標3に関連する現況を説明します。①街並み形成について説明いたします。長野市は、善光寺周辺・松代地区・戸隠地区・鬼無里地区の4地区で、「景観計画の策定による計画推進地区指定等」を定め、特色ある良好な景観形成を推進し、「街並み環境整備事業」により、電線類地中化や道路の美装化等が行われ街並み環境の整備を進めています。続いて13ページ目をご覧ください。先ほどの12ページで説明しました事業の例を掲載しております。14ページ目をご覧ください。②中心市街地活性化について説明いたします。中心市街地活性化基本計画は、平成19年5月に認定され、現行のマスタープランの内容を踏まえたものになっております。平成24年には、第二期基本計画を策定しています。また、活性化の成果についてフォローアップしており、5年前との比較をしています。この評価では、まだまだ成果が出てきたとは言い難い部分がありますが、このフォローアップ時では、中央通りの歩行者優先化事業が完了していない状況でしたので、次回のフォローアップ時の評価を検証していく必要があると考えております。続いて15ページ目をご覧ください。ここに、「目標4：豊かな自然を尊重し環境負荷の低い環境共生型都市とする」の要点を点線枠内にまとめてあります。黒い丸を上から、順番に読みます。長野市の人と自然が融合して育てられてきた里山を守り育てる。自然に恵まれた郊外の環境の保全を進め居住と調和した環境づくりを行う。市街地では暗渠化された水路の復活、緑豊かな公園や広場が行政や住民等の協働により整備される。京都議定書の目標達成、持続可能な都市構造、建物の省エネルギーや再生可能エネルギー利用を促進する街づくり。この目標4は、豊かな自然を最大限に活かし個性ある地域づくりと環境負荷を減らし循環型社会を実現する持続可能な都市構造を目指していくものです。続きまして、目標4に関連する現況を説明します。①の現状

1) 緑被率。緑被率とは、樹林・草地に覆われている面積の比率を示したものです。なお、草地は農地を含むものとなっています。都市計画区域全体の緑被率は、60%。市街化区域内は、23%となっており、郊外の方が樹林・草地が多いことが解ります。続いて16ページ目をご覧ください。2) 緑に関する市民意識。平成19年「まちづくりアンケート」から、市民意識をまとめたものです。設問の「5年ほど前と比べて、あなたが見たり接したりする緑は増えていると思いますか」に対して「変わらない」「減っている」を合わせると、概ね70%となっております。また、「あなたが特に『長野市らしいと感じる緑』とはどこですか」（三つまで）の問に対し、「周囲の山々の緑」が7割ほど、「善光寺周辺や松代に代表される歴史的町並みの緑」が概ね5割、「広がりのある水田や果樹園の緑」が概ね4割となっております。続いて17ページ目をご覧ください。3) 温室効果ガスの排出状況と将来見込み。ページの下

の円グラフ、「部門別の温室効果ガスの排出量」をご覧ください。温室効果ガスの割合は、業務34%と全体の1/3を占め、家庭が約2割、運輸約2割となっています。都市づくりでも低炭素化を促進していくため、業務、家庭、運輸部門での削減を進めていく必要があります。

続きまして、18 ページ目をご覧ください。ここに、「目標 5：地域が主体となって街を創り・育てる」の要点を点線枠内にまとめてあります。黒い丸を上から、順番に読みます。地域に対する住民の意識が高い、自立した街にする。様々なコミュニティやネットワークによる多様な人や組織により創り育てられる街にする。治山治水が進み防災機能が強化された都市とする。災害発生可能性等の情報が十分に提供され、災害時の応急体制が充実した街にする。犯罪などが起こりにくい、安心して住める危険の少ない街にする。この目標 5 は、地域住民が自らそれぞれの地域の特色ある街づくりに取り組み、市民と住民自治協議会・行政が協働して街づくりを進めていくものです。続きまして、目標 5 に関連する現況を説明いたします。

①都市内分権の進捗状況。長野市では、市民と行政との協働によるまちづくりを促進するため、平成 18 年度から「都市内分権」が進められ、平成 22 年度から 32 地区において住民自治協議会が組織されております。この組織により、地区の実情に応じた活動や事業に取り組むなどの活動が、行われております。19 ページ目をご覧ください。住民自治協議会など地域での活動に対する市の支援を説明いたします。(1) 地域を支援する体制としては、住民自治協議会と市の役割分担を明確すること。また、市では住民自治協議会の担当職員を配置し、地域活動の支援をしています。(2) 住民自治協議会への財政支援としては、地域課題の解決に財政的支援を行っております。また、住民自治協議会に対する市民意識を説明いたします。

この資料は平成 24 年度のまちづくりアンケートによるものです。このアンケートの結果では、市民の 4 人に 1 人が協議会に参加していること。年代が高いほど参加率が高く、若年層の参加が少ない状況が分かります。今後の協議会に求めている主な活動では、「防災対策の活動」「地域の魅力づくりの活動」「地域の環境美化」となっております。続いて 20 ページ目をご覧ください。ここでは、市民に公表されている災害予測情報を掲載しております。②災害危険区域の状況。災害危険区域の土砂災害特別警戒区域いわゆるレッドゾーンについては、国土省の都市計画運用指針にも「立地適正化計画の居住誘導区域に含めることについては、にも慎重な判断を行なうこと」とされています。都市の集約化を進めるには災害リスクの低減を図る検討が必要と考えられます。この図面は、安茂里小市地区辺りのものとなっております。21 ページ目は、市域全体の災害危険区域の指定状況となっております。「1. 現行MP 5 つの目標からみた現況」の説明は以上となります。22 ページ以降の「2. 都市構造等の評価」について、策定支援業務の委託先の株式会社日建設計総合研究所から説明いたします。

○事務局 続けて説明をいたします。株式会社日建設計総合研究所の竹村と申します。よろしく願いいたします。続きまして、資料 22 ページからでございます。都市構造等の評価ということでございまして、統計データですとか、最近整備されてます地理情報システムのデータ等を使いまして分析をした結果を一部ご紹介したいと思います。一つ目は人口集中地区の推移ということで、これは第 1 回の専門部会でも多少ご報告があったかと思っておりますけれど、長野市の都市的な集積度合いを国勢調査で調べているものでございます。5 年おきに調査をされておりますので、また今年もこういう調査がされていると思われま

ん中のグラフを見ていただきますと、昭和35年から5年おきに人口集中地区、この人口集中地区の定義は22ページの下に小さい字で脚注を書いておりますけれども、人口密度が40人/ha。この40人というのは一つのポイントで、都市的かどうかというポイントになっておまして、市街化区域の設定にもこの数字が使われております。40人以上のまとまったエリアを、この人口集中地区、通称D I Dと言っておりますが、こういう地区になっております。グラフの中で、高度成長期の昭和35年から昭和60年にかけてD I D（人口集中地区）は急激に面積が増えまして、都市化が進みました。折れ線グラフが書いてありますが、これは密度を表しておまして、昭和35年は88.7、これは、88.7人/haということです。先ほどのD I Dが40人以上ですので、その倍以上の密度があったのが、急激に密度が市街地の拡大によって減少しまして、昭和55年以降はヘクタールあたり50人台をやや右下がりに低下しているということでございます。下にそれが空間でどう広がったかを示しておまして、下の図の青い所が1970年、これは昭和45年ですけれども、昭和45年から10年刻みで青色から赤色にかけて表現をしております。見ていただきましてわかりますように、元々は長野ですとか、篠ノ井、松代といった人口が集中していた所から、徐々に東側、あるいは北側に人口が広がっていったということが分かるかと思えます。続きまして、23ページの冒頭に少し文章で書いておりますが、市街化区域の人口密度ということでございます。市街化区域については、1枚めくっていただいた25ページに大きな長野市の図がございまして、ここのピンク色で枠取りがしである部分が市街化区域のエリアでございます。この市街化区域のエリアが、これから都市計画で定める都市的な市街地ということで、この中に人口が現在287,819人いらっしゃいまして、市全体の人口の75%が市街化区域内にお住まいとなります。全体で5,948haありますので、人口密度を単純に出しますと、48.4人/haとなり、先ほどの40人は超えているということでございます。市街化区域の設定の基準というのが、40人/haが連担しているようなエリアですので、今のところの長野市では40人/haはクリアしているということになります。ただ、23ページの真ん中に人口の今後の予測のグラフを表してありますように、これから人口が更に減少して、例えば20数年後の2040年では、2割くらい減少してしまうということですので、市街化区域の面積が変わらずに一律に人口が2割減少しますと、単純な算数で計算すると、 $48.4人/ha \times 0.8 = 38.7人/ha$ となり、40人/haを下回ってしまうという状況になってくるということでございます。これはあくまでも市街化区域が一定の場合ですので、今後の立地適正化等で集約を図っていくことで、人口の密度が維持できるかどうかということになっております。真ん中からの人口の推移ということで、この人口については、先ほどご説明のあった長野市の人口ビジョンで更に詳しい分析がされておりますので、ここでは割愛します。今回改定の都市マスタープランの目標が20年後なので、概ね2040年くらいを目標とすると、平成22年（2010年）から2割が減るという状況で今後の計画を作っていく必要があるということでございます。24ページ以降は人口を地域別にどうなっているかということ进行分析したものでございます。24ページは現況の人口で、これは500mメッシュという、500m×500mの枠

の中に何人いるのかを国勢調査のデータを元に表したものです。色が赤色に近づくほど人口密度が高く、真ん中の黄緑色が40人/haから60人/haですので、それ以上が市街化区域ですとか、国勢調査のD I Dの人口密度を満たしている所となります。水色や薄い水色といった青系統色の所は40人/haに満たない所となります。中心の市街化区域の部分を拡大したものが左上にございますけれども、市街化区域の縁辺部と言いますか、そういった所はかなり40人/haを満たさないような薄いエリアが点在している状況でございます。これが将来どうなるかということで、25ページが将来予測をしたものでございます。これはコーホート分析という、各メッシュの中の年齢別の人口を元に、子供の多いメッシュはそこでまた子供が生まれて人口が増える、高齢者が多くて若い人が少ないエリアはどんどん高齢化が進んで人口が減っていくという単純な仮定の元に、メッシュ毎に分析をしたものでございます。現実的には社会移動ということで、引っ越したり、あるいは転入されてくる方もいらっしゃるのですが、それはなかなか細かい単位では分析は不可能ですので、単純に、現在の人達がこのまま20年間居続けるとどうなるかというものを図で表したものとのお考えください。そうしますと、先ほど見ていただきました、40人/haを下回るような、この図の水色、青色の所というのがかなり広がってきまして、例えば、長野市の中心市街地もかなり色が薄くなっておりまして、それから、篠ノ井ですとか、松代、こういった所がかなり人口が薄く減ってくる状況になります。先ほどから市街化区域の縁辺部は薄かったわけですが、そういうものが更に広がると状況になっております。この差をより分かりやすくしたものが26ページの図でございまして、これは現況と20年後の予測の人口をメッシュ毎に引き算をしまして、青い色の所が現況より減る所、赤い色の所が現況より増える地区ということで、全体的に2割人口が減りますので、基本的に人口が減っていくのですが、特に中心市街地ですとか、中心市街地の北側のエリアは元々人口が多いエリアでもありますので、人口の減り具合も多くなります。逆に市街化区域の縁辺部で増えていくということが分かるかと思えます。27ページは高齢化を見たものでございます。メッシュ毎に人口の構成が分かりますので、左上の図は将来の高齢者（65歳以上）の人口の人数を表したもので、500mメッシュで大きさは一緒ですので、いわゆるこれは密度を表していると思っていただければいいと思いますが、元々人口が多い中心市街地や、篠ノ井ほどの人口の多い所は当然、高齢者も多くなっていきます。こういった所は絶対量として高齢者が多い所になりますので、高齢化に関連する施設、あるいは病院といったものの施設配置というのは、こういう分布を考えていく必要があるということでもあります。右下は率を取ったもので、それぞれのメッシュ毎に高齢者が何割くらいかということで、パーセントで表したもので、これも赤系統の色、オレンジ色から赤色にかけて30%から一番赤い所で50%以上になっており、現在の長野市の高齢化率は30%弱だと思えますので、それよりも高齢化が進むエリアが赤色の部分になります。これも中心市街地や市街化区域の縁辺部で高齢化が進むということになります。更には都市計画区域外ではありますけれども、中山間地域、西側の山々の部分ですとか、あるいは周辺部では、絶対数、人数的には少ないわけですが、

高齢化が50%以上ということで、50%を超えると限界集落と言われますので、そういったエリアと言いますか、地域の持続性という点でこういう所での今後のまちづくりの考えも出てくるかなと思っております。次のページ、ページ番号が飛んでいて恐縮ですが、今度は拠点性という観点から人口ではなくて、商業施設や他の施設がどうなっているかを分析したものでございます。まず、このページは大規模小売店舗ということで、スーパーや百貨店といった施設がどの辺にどのくらい集積しているかということを表したもので、下の図は色分けで、例えば、紫色は百貨店、緑色はスーパー、という色分けをしております。円の丸が床面積の大きさを表しており、大きな丸ほど集積が高いということを表しております。当然のことながら、長野駅周辺には商業施設が集積しており、周辺の国道沿い、バイパス沿いにも、特にスーパー系や専門店系が集積をしております。それを数値的に見たものが上の表になります。拠点エリアということで、駅から600m、先ほど公共交通ビジョンの中でも600mというものがありましたので、それと合わせる形で駅から600m以内に施設がどれだけあるかというものを地区毎に表したものが一番上の表になります。600m以内なので、一番多いのが長野駅周辺となり、店舗面積の割合からすると、市内全体の面積の17.6%の床面積がここに集積していて、次に北長野という形になります。ただ、長野駅周辺も600mだけを取っておりますので、先ほどの中心市街地という意味では少し狭いので、真ん中の表は、長野市中心市街地活性化基本計画のエリアを取って、その量を見たものでございまして、24%ということで市内の約4分の1の小売の商業面積が中心市街地に集中しているという状況でございます。29ページはその他の施設ということで、今後の立地適正化の中で学校や病院、福祉施設といった日常生活に必要な都市機能が拠点駅から歩いていける距離にあるのかどうかということが課題になってまいりますので、それを調べたものでございます。下の図は公共交通ビジョンで示されているもので、鉄道とバスの圏域内に施設がどのような状況で立地しているかというのを表したのですが、上の表は今回独自に600m圏で各駅毎にどれくらいの施設があるかというのを調べたものになります。先ほどの大規模小売店舗はそれぞれの駅の中で施設でいうと、2割くらいが集中している、床面積で言うともっと集中していると思えますけれども、その他、例えば病院・診療所というものがございまして、市内全体で531の病院・診療所がある中で、各駅に徒歩圏であるのは17.5%となっており、やはり2割弱くらいが駅からの徒歩圏にあるということになります。多いのが長野駅周辺、それから篠ノ井や松代、北長野といった元々都市マスタープランで地域拠点と位置付けられている所に集積している状況でございます。30ページが中心市街地だけを取り出して分布等を見たものになっております。中心市街地ですので、学校系がこのエリアの中には少ないですが、病院・診療所で60箇所あって、市内の中で1割くらいがこの中に集中している状況でございます。続いて、31ページ以降が都市構造の都市間比較でございます。これは国土交通省で今回の立地適正化の分析のために「都市構造の評価に関するハンドブック」というものが出されてございまして、表に挙げてあるようなデータを元に分析をして、それを他の都市と比べてみなさいというようなことがアドバ

イスされていますので、今回長野市においてもそれをやってみました。具体的には33ページ以降でございまして、いろいろな指標がございまして、一覽を添えたレーダーチャートで表させていただいています。このレーダーチャートに細かい指標がございまして、例えば、都市構造に関するような指標では、人口密度に関するものや歩道の整備率などがございまして、この図の見方ですが、それぞれ指標によって単位が違いますので、ここでは偏差値ということで、50という数値が平均になるように処理をしたという数字で比較をしております。50の所にブルーの円が描いてありますが、これが全国の平均値ということになります。このブルーの円上にあれば全国平均並み、ブルーの円より外側になると全国平均を上回っている、円の内側になると全国平均を下回っているという状況になります。緑色の破線がございまして、これは都市規模が10万人から40万人くらいという長野市が入る、そういう都市規模だけを取り出して数値化したものになります。赤い線が長野市になります。全国平均からしますと、出っ張っている優れている部分と、内側に入っているやや劣っている部分というのがございまして、例えば、全国平均より劣っているのは、時計回りに12時の方向から見ますと、一番上の「居住を誘導する区域における人口密度」です。分かりにくい言い方をしておりますが、市街化区域の中の人口密度ということで、これは全国平均よりも下回って薄いかなと。それから、右回りに行きますと、飛び出ている所が「公共交通利便性の高いエリアに存する住宅の割合」ということで、これは意外に、全国平均を上回っています。それから、「市民一人当たりの自動車走行台キロ」ということで、これは自動車がどれだけ使われているかということですが、これは使われているほど評価としては悪い評価となりますので、逆数を取って示しております。ですから、長野市の場合には出っ張っているということは、全国平均からすると割と優れている、走行台キロが低いということになります。同じ様に右下に飛び出しているのが、「高齢者徒歩圏に医療機関がない住宅の割合」と分かりにくい表現になっておりますが、高齢者が徒歩圏（歩いて行ける範囲の中）に医療機関があるかないかということで、あると出っ張って良くなるということで、これは割りと長野市は成績が良く、住宅と近いところに医療機関があるということを表しております。ちょうど6時の辺りにありますのが、「歩道整備率」ということで、これはかなりブルーの円から内側に寄っておりますので、これは全国平均、あるいは類似規模都市から見ても少し遅れているかという状況がございまして、更に右側に行きますと、「従業者一人当たり第三次産業売上高」ということで、これはサービス産業ですとか、そういったものの売上高はかなり成績が良いということになります。これは県庁所在地であるということで三次産業が割りと比率が高いということにも特徴が出ているのではないかと感じております。こういった形で出っ張りもあれば引っ込みもあるということで、面積が多ければ多いほど全国平均を上回っているということでございまして、他の都市と比較ということで、次の34ページ、35ページに少し並べています。選んだ観点は人口規模が長野市とほぼ同じくらいの所ということで、まず県内からは松本市、近隣都市で割りとコンパクトシティの取組みも進められている先進的な都市である富山市、人口規模が

ほぼ同じでエリアとしても近い高崎市の三つを並べてみたものでございます。それぞれの都市も大体同じ様に出っ張り引っ込みがあると思いますけれども、長野市と比較をして比べますと、松本では、「都市機能を誘導する区域における小売商業床効率」が長野市よりも上回っていたり、「市民一人あたりの交通事故死亡者数」も長野市よりも成績が良いということでございます。富山市に行きますと、都市構造とは関係ないのですが、時計で言うと10時、11時台の位置にあります行政経営に関する指標ということで、「財政力指数」ですとかそういったものが成績が良かったり、「公園緑地の徒歩圏カバー率」が長野市に比べて成績が良いという状況になっております。高崎市についても「財政力指数」ですとか、そういうものが高く、長野市も高かった「従業者一人当たり第三次産業売上高」はかなり突出しているという状況で、これもひょっとしたら、大規模店舗の量販店等の本社が高崎市には多いと聞いておりますので、そういった影響なのかもしれません。単純にこれだけを比べてこれからの都市づくりを決めて行くという事にはならないと思いますが、長野市の立ち位置と言いますか、それが見て取れるかということで、一つ分析結果としてご紹介いたしました。最後に36ページは先ほどありましたD I Dの人口密度と市街化区域の人口密度をそれぞれ全国の都市で並べてみたものです。横軸（X軸）がD I D（人口集中地区）の人口密度、それから縦軸が市街化区域の人口密度で、D I Dと市街化区域がちょうど同じくらいという所が、線上45度の線に乗っている所になります。それよりも右下、線よりも下は市街化区域よりもD I Dの人口密度が高くなっているという所で、長野市も若干市街化区域の人口密度が低いということから、若干拡散傾向にあるということですが、都市規模もありますので、先ほど比較しました類似都市からすると人口密度が結構高いということになります。青色の点は三大都市圏の都市になりますが、当然人口密度は高く、長野市規模の40万人から10万人までの緑色の点からすると、割と上のほうと言いますか、そういうポジションということでございます。最後の37ページは縦軸を基幹の公共交通路線、先ほどご紹介のあった30本以上の利便性の高いバス停ですとか、駅そういった所の人口がどれだけ集中しているかということで、全国的に同じ座標で比較したものです。これも長野市は他の比較した都市よりはカバー率が高く、50%ちょっと下回るような形で出ているということで、それと市街化区域の人口密度を比較したのですが、グラフの表現が少し偏っておりますけれど、全国的な平均値は58.19%ということですので、それより少し下回るようなカバー率になっているという状況でございます。長くなりましたが以上でございます。

○部会長 はい、どうもありがとうございます。今現況と課題の整理ということでご説明をいただきました。かなりボリュームのある説明だったので、なかなか把握するのが大変かとは思いますが、今の長野市の状況という意味ではかなり突っ込んだ分析をしていただいているような気がします。ご質問はございませんでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 30ページの中心市街地の都市機能のカバー率のご説明を聞き逃したと思うのですが、33ページの図とかには出てこないのですね。30ページのカバー率というのは、こ

れは他都市と比べるとどうなのでしょう。

○事務局 分かりにくいかもしれませんが、33ページのレーダーチャートでいきますと、時計で言う1時とか2時くらいの位置にある、「生活サービス施設の徒歩圏人口カバー率」というもので、それが医療、福祉、商業がございます。徒歩圏人口カバー率なので、駅のカバー率ではないのですが、例えば医療サービスが徒歩圏ですので、例えば800m、歩いて10分のエリアにどれだけの人口がいるのかというのを分析をして市全体の中で何割くらいかというカバー率ということで全国との比較ができるかと思えます。医療の施設の徒歩圏のカバー率では、類似規模都市からするとやや上回っているけれども、全国平均は大都市も含んでいますので、それよりは若干少なめとなります。福祉については全国平均並み、商業についても、ほぼ全国平均と一緒に、類似規模都市よりは優れているというような見方をいただければと思います。

○部会長 よろしいでしょうか。はい、他には。はい、どうぞ。

○委員 28ページに都市拠点の中の店舗の面積等の表を載せていただいているのですが、金額ベースで実際どこでお金を落としているのかというのは、面積に比例するということの理解でいいのでしょうか。

○事務局 細かい店舗毎の売上等が分からないものですから、なかなかそういう分析は出来にくいので、おっしゃるように店舗面積等に比例するとか考えてもいいのではないかと思います。

○委員 消費の動向が多分、いろいろ変わっていると思うのですよ。昔、随分前であれば、駅前の百貨店とかでお買い物をするということが一般的だったと思うのですが、今は郊外へ行ったりですとか、インターネットでの利用が増えてるので、店舗の面積がどこまで参考になるのか、これを頼りにして計画を立てていいのだろうかというところが少し心配な気がします。

○部会長 ご指摘はそのとおりですが、現実問題として、今のご指摘を受けたデータを作るのがなかなかできないという、そういう問題があるということをご理解いただいた上で、この資料があるとお考えいただくしか仕様がいないのかと思います。例えば、36ページ、37ページの辺りは物凄く興味深い値になっているんですね。36ページの同じ40万人から10万人の緑色の点で、比較していただいたのは長野市、松本市、高崎市、富山市ですけれども、同じ様な人口規模でも右上の方に非常に密度が高く市が形成されている市がありますよね。これってどこなんだろうかというのを知りたいという、要するに、どういうまちづくりをするとかこういうことになるのかという方向性を知りたいのですけれども、それはお分かりになるのでしょうか。

○事務局 今すぐは分かりませんが、調べれば分かります。次回報告します。

○部会長 例えばデジタルで点をクリックすると何市だと分かるようになっていけばそれを見ながら相談していけばいいのでしょうかけれども、36ページ、37ページはこういうの

が見たかったというくらい素晴らしい図だとは思いますが、もう少し使いたいという気がします。はい、どうぞ。

○委員 今の36ページ、37ページのデータ、できれば時系列で見たいなど。

○部会長 変化ですね。

○委員 はい。それがあると、政策を打った形でそう動いたのか、市町村合併のような形で動いたのか、元々面積の小さい所でずっと同じ状況なのか、少し要因分析みたいなことができるのではないかと思います。時系列で見るともっと分かりやすいのではないかと思います。

○部会長 20年くらいのスパンで見るといろいろなことが分かるよね。

○委員 時系列での都市間比較というようなものができれば、長野市に近いようなところのモデル、その都市マス、どんなまちになっているかも面白そう。

○部会長 私も正にその通りだと思いますが、出せるかどうか。データとしては持ってらっしゃるのでしょうか。

○事務局 データとしてはないので、例えば長野市の場合は当然時系列のデータがあると思うので、この図の中で長野市がどういう経緯をたどってここに行き着いたかというようなことは表現は出来ませんが、他の都市になるとその市の状況を調べないといけないので、DIDの情報は統計データとして整備されているので手に入りますが、市街化区域の密度等は難しいかもしれません。

○部会長 都市の名前を教えてくださいだけでも、例えば地形的な問題で市が発展できずに、密集化せざるを得なかったというようなことも考えられるし、諏訪とか岡谷、長野県で言えば、周りが山と湖に囲まれて隣も両方とも市があつて、面積的に広がりようがなかったというような所なのか、それとも本当に政策的な誘導が上手く行った所なのかというのは知りたいことは知りたいです。松本、富山、高崎と比較してみると、長野も捨てたもんじゃないという気がします。はい、どうぞ。

○委員 この青の三大都市圏というのはどういうグループですか。

○事務局 首都圏、それから名古屋中心とした中部、関西の大阪の三大都市圏の中の各都市ですから、市が多いと思います。あとは区などになります。

○委員 グループ分けを明確にしないと、そもそも三大都市圏と地方都市との混在をしてみても、あまり意味がないと思うのですよね。三大都市圏の中に都市規模が小さいものから大きいものまで入っているとすると、グラフの意味合いが、いろいろな影響を受けるものに違いがあるので、もう少し分類されたほうが、今のご意見に沿った形になるのではないかなと思われていますが、それは私の意見なので、聞いていただければ結構です。その前に戻っていただいて、レーダーチャートの話で、そもそも使い方が先ほどの徒歩圏の問題になるのですけれども、600mというのは元々公共の駅からという意味なのですか。ということは、公共交通とか電車が発達している都市は当然有利になるという、そういうことを指している

のですよね。そうすると、今ご説明いただいた、例えば「生活サービス施設の利用圏平均人口密度」は、事例で上げていただいた長野市の他はみんな同じなんですかね。結果的に何の変化も出ていない。つまり、地方都市は公共交通が非常に不便だということを示しているだけで、これが本当に地方都市とかでここが非常に有利、突出しているような事例があるのでしょうか、という疑問があるのですけれど、どうなのでしょう。

○事務局　これは市単位で分析をしているので、違いというものがそんなに極端には出ないと思います。すみません、先ほどの公共交通はバスも含んでいます。先ほど多少ご説明したように、例えば三次産業の売上高では、やっぱり県庁所在地的な特性も出ていますし、逆に歩道整備率というのは、先ほども年間1kmというような整備になっているというようなことから、例えば交通事故の確か1万人当りの交通事故死亡者数という数字も若干他の都市に比べて低かったりもします。松本が高かった気がしますので、そういうところにも現れています。先ほども申しましたようにこれ自体だけで市を分析するのは難しいので、それ以前にご紹介したような地域毎の分析とかを併せて検討していく必要があるかなと思います。

○委員　もう一点、先ほどもご質問があった商業関係、大規模小売店舗等の売上云々の話で、生活に影響しているという話になりますけれども、実感としてなかなか、今デパートに行くとかそういう感覚が薄くなっていますよね。例えばアンケートでもそういう結果が出てくると思うのですけれども、多分専門店とかいろいろと特化しているお店に行くという傾向があると思うので、そういう意味ではもう少し分析として表示の仕方はないのかなと思います。こう表されると大規模店、スーパーがないからそこは不便だというような端的な感じに受け取られても、あまりいかがかなという感じもするので。私も篠ノ井に住んでいるのですが、篠ノ井はほとんど何も周りはないみたいな状態ですけれども、さほど不便はしていません。そういう工夫が部会長からは難しいというご指摘があったのですが、もし何か工夫があればというのと、もう一つ、生活圏的に見ると、今コンビニがどんどん増えているという問題があるわけですよね。生活圏をどう考えるかという話しになると、コンビニにたくさんのお年寄りが行く時代になってきていて、そういうもので生活の範囲というか移動圏が少し決まってきているような感じもありまして、そういうことを考えないと一方的に集中型だけで見ても住みやすさとかそういうものを表せないのかなと思いました。そういう一面があったり、可能であればトライしてもらいたいという意見のようなものですが、よろしくお願ひします。

○部会長　後はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。この現状の分析を踏まえた上で次の審議事項（2）で、私たちが策定をする都市計画マスタープランをどういう方向性にしようとか、どんなことに注意をしなければいけないよねという話しをしていくのですが、移ってもよろしいでしょうか。はい、では、続いて、議事を進めさせていただきます。審議事項（2）「都市づくりの理念・目標全体構想」の改定の方向性についてということで、メインの部分になるかと思ひます。最初に事務局からご説明をお願いします。

○事務局 はい、事務局の小林と申します。私からは、資料2について説明させていただきます。部会長からも今お話があったとおり先ほどから、資料1に基づきまして都市の現況を都市構造の評価などにより確認をしていただきました。資料2では、関連した長野市の計画等を考慮しつつ、新たな都市マスタープランの理念・目標等の改定の方向性・内容を検討したいと思っております。まず、検討にあたり考慮すべき社会潮流や都市づくりの課題について事務局が抽出したものを説明をさせていただきたいと思っております。それぞれ分野別にご説明をさせていただきます。まず、都市のコンパクト化、都市構造に関する課題でございます。人口減・少子高齢化に向けた対応であったり、公共交通の確保、中心市街地の活性化、広域市町村連携の必要性などが含まれております。特に、人口減・少子高齢化については、先ほどから説明があるように2040年には平成22年度比で約2割の人口減少が見込まれているということですので、非常に重要な事項であるかと思っております。次の公共交通についても、長野電鉄の屋代線の廃止ですとか、バスの利用者の減少など公共交通を取り巻く厳しい環境がある一方で、先ほどの人口減少・高齢化に伴います交通弱者の増加ということがございますので、公共交通についてもこれから重要な要素になってくるだろうということがございます。2番目に長野らしさを活かした都市づくりの課題。これは長野の魅力都市づくりにどのように取り込んでいこうかという観点でございます。3番目、自然環境の保全と都市環境整備に関する課題でございます。地球温暖化防止に関する都市づくりでの対応や市街地の緑の充実などがこの中に含まれると思っております。2ページ目、防災都市づくりに関する課題でございます。大規模災害への備えは、東日本大震災や長野県神城断層地震の発生など、また、ゲリラ豪雨などの都市型水害、これらの頻発などから安全・安心に対する取組みの重要性が高まってございますので、非常に大きな要素かと思っております。5番目、公・民の連携（共同、パートナーシップ）に関する課題です。この中には、都市の資産（ストック）の活用、まちづくりにおけるパートナーシップの重要性、民間活力の導入、公民連携が唱えてございます。特に都市の資産については、今後増加が予測されます空き家等への対応ですとか、公共施設のマネジメント、都市計画道路の整備優先順位化など、民だけではなく官もそれぞれ役割を持ちながら進めていかなければいけないということになっております。また、まちづくりにおけるパートナーシップの重要性については、都市内分権の進展と合わせまして、中山間地域等でも小さな拠点の活性化などが今後重要になると考えております。以上、都市計画マスタープランの改定にあたり考慮すべき社会潮流や都市づくりの課題について事務局としてご説明申し上げました。3ページ以降でございますが、この抽出した内容について本市の上位計画でありますとか、関連計画でどのように考えられているかといったものをまとめた資料となっております。長野市総合計画でありましたり、前回ご説明をさせていただきました人口ビジョンでありましたり、一番下、人口減少に挑む長野市長声明ということで9月26日に発せられたものがあるのですが、こういったものがございましてということでございます。4ページ目は公共施設マネジメントや公共交通ビジョン。それぞれの基本方針として以前ご説

明したように、四つないしは三つ示しながら進めていくという状況でございます。5ページ目はその他の関連計画ということで、今回マスタープランに関する部分で関係の計画の中で必要な部分について抽出をしたものでございます。これについては、後日ご覧いただければと思います。改定に考慮すべき社会潮流や都市づくりの課題」の次に、これらを受けた上で、改定の主な考え方について申し上げます。5ページです。現行の都市計画マスタープランの理念・目標・都市像は、道半ばの状況でございます。マスタープランは平成19年の策定から、8年が経過しておりますが、目標年次には達しておりません。マスタープランに掲げた都市づくりの理念、目標などについても、進捗はしているものの項目によっては達成状況が思わしくなかったり、途上のもの、さらに具体的な取組みが必要なものなどがある状況です。一方で、都市づくりに関わる状況は策定時より深刻化、課題解決の必要性が増しております。時間軸を意識したスピード感を持った対応が求められています。人口減少の本格化、公共交通の状況の深刻化、大規模災害、公共施設等の維持・更新など、都市づくりの課題や目標の必要性・重要性がさらに高まる方向にあると思われれます。また、国における「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」化や「地方創生」の推進についても、国においても立地適正化計画制度が設けられるなど、長野市の以前から目指してききている都市づくりの方向性について都市計画制度としてバックアップする取組みが始まってございます。さらに、「地方創生」を最重要課題として政策が展開されており、長野市においても「長野市人口ビジョン」と、これを踏まえて「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し好循環の確立に取り組むつつある状況です。以上を考慮すると、改定の基本的な考え方としては現行の理念、目標の方向性、内容については、大きな改定を加えるのではなく、理念・目標の明確化、市民への理解の醸成（わかりやすさ）などを念頭に、長野市の新たな計画や政策を踏まえ、理念、目標を修正していくことが適当であると考えております。ここで8ページ目をご覧ください。今ほど申しあげました基本的な考え方に沿って、事務局として都市づくりの理念・目標について改定案を示したものです。表の左側は現行のマスタープランに記載されているもの、右側改定案になります。現行のマスタープランの理念は次の三つの柱で構成されています。「市民、地域、行政が協働して創る『誇りのもてる都市』」、「自然・歴史・文化を活かした質の高い『選ばれる』都市」、「多世代が交流し自由に活動できる『元気で共に支えあう』都市」これらの理念の方向性を基本的には踏襲しつつ、次のような手法で改定を考えました。6ページ目後段にお戻りください。都市づくりの理念については、大きく次の三つの視点とそこから抽出したキーワードを元に改定案を策定しました。視点の一つ目は総合計画における基本構想を踏まえ、人口減少・高齢社会のもとで諸課題を解決して都市づくりを進めていく。視点の二つ目は、都市として持続していくためには、人口減少に挑む長野市長声明で掲げられている、「定住人口の維持、増加」、「交流人口の増加」、「特色ある地域づくり」や、直近で策定された長野市人口ビジョン「少子化対策・子育て支援」、「活力ある地域づくり」、「広域市町村連携」などの視点。三つ目は、都市の基本的・根幹的な要素として求められる「安全」、「安

心」、「環境」などにも引き続き力点を置いていくという視点です。これらの視点や方向性を踏まえ、都市づくりに展開していくためには、「長野らしさ」（地域性、歴史・文化、自然、人など）を活かしていくことが不可欠であると考えています。ページが前後して申し訳ありませんが、もう一度8ページにお戻りください。視点については先ほどご説明をしましたので、次にキーワードについてです。視点から抽出したキーワードですが、表右上において下線で示した部分でございます。例えば、一つ目が「定住人口」でございます。この定住人口に対し、理念として「歴史・文化・自然などを活かし、「誇り」と「愛着」のもてる暮らしやすい都市」とする。二つ目のキーワードとして「交流人口」です。この「交流人口」というものに対して、理念は「様々な魅力と活気が感じられる、多くの人を惹きつける都市」。三つ目のキーワードは「安全」と「安心」、更に「パートナーシップによる都市形成」です。これらのキーワードから「安心して自由に活動し、元気で過ごせる、皆で共に支えあう都市」です。こういった観点で新しく理念を分かりやすく、再編する形で新たに改定の案を今回お示しいたしました。以上「理念」の改定の方向性についてご説明させていただきました。続いて「目標」の改定の方向性についてご説明申し上げます。7ページ目にお戻りください。目標についても、理念と同様に現行の目標を踏襲するものの、わかりやすさ（シンプルさ）を重視し、下記の目標を他と統合することが考えています。現在、現行の都市づくりの目標としては「歩いて暮らせる街にする」、「都市の資産を上手に使う」、「地域特性や歴史等を活かした特色のある都市文化を創造する」、「豊かな自然を尊重し環境負荷の低い環境共生型都市とする」、「地域が主体となって街を創り・育てる」という五つの目標を掲げてございます。この中で、目標4、目標5について目標1、目標2、目標3それぞれに統合するという案を今回考えております。目標4の前段「豊かな自然を尊重し」の部分を、自然も地域特性（長野らしさ）の一つとして目標3に統合。また、後段「環境負荷の低い環境共生型都市とする」という部分を低炭素なまちづくり等の都市のコンパクト化も重要な要因であることから目標1に統合。また、新たなまちづくりの目標5については、地域が主体となった取組みは、全ての目標に共通することであることから、目標の柱としては外すものの、地域特性を活かしたまちづくり（目標3）に内容を統合するという形で方向性をこちらでお示しをさせていただきました。以上、私からは理念・目標・全体構想について「考慮すべき社会潮流や課題の抽出」や、「理念・目標の改定の方向性」素案をご説明させていただきました。なお、9ページに図表が示されておりますが、現行のマスタープランに掲載されている都市の構造図であります。今後、立地適正化計画において都市機能誘導区域や居住誘導区域を設定などに関係するものです。次回以降に審議・議論いただくよう予定しているものですが、重要なものですので、参考までに今回先行して掲載をさせていただいております。私からの説明は以上です。

○部会長 はい、以上の今のご説明に対して、ご意見、よく分からなかったとか、ご質問はありますでしょうか。

○委員 先ほどのご説明の中で1ページ目の（1）1）①都市のコンパクト化、都

市構造に関する課題の一番下に「広域市町村連携の必要性」というくだりが、ただ今出た 8 ページの案の中に従来の現行の都市マスの内容とそんなには変わらないのかなと思って拝見をしていました。ご存知のように国の方針として連携中枢都市構想というものをしっかりと上げながら地方の創生をしていかなければいけないという中で、自治体単独のこれからの将来像にも、広域連携としてその中核都市にある長野市が周辺も含めた立ち位置をどうしていけばいいのかということに対して、連携中枢都市圏の形成というくだりはあるものの、煎じ詰めればこうなるとは思っているのですが、8 ページ目に従来とはそんなに大きく変わりのないような基本的な理念がくだられているということを考えれば、もう少し進歩的に向こう 10 年、20 年の長野市を考えたときに、周辺を巻き込んだ中で長野市の将来的な立ち位置についてのくだりがあっても僕はいいのかなという気はします。それについてはいかがでしょうか。

○事務局 広域連携については、当然今後更にやっていかなければいけないことだということは承知をしているところですが、なかなか理念や目標に反映をしづらいいと言いますか、「手段」なのか「目標」なのか、非常に難しいところもあります。ただ、頂いたご意見を踏まえながら次回以降反映の出来るところを検討していきたいと思っております。

○部会長 長野市の都市計画マスタープランなので、例えば中野市や須坂市、千曲市に対して書き込むということはなかなか難しいと思います。

○委員 そういう内容ではなく、今回の広域連合というのは 3 市 4 町 2 村の広域連合ということですよ。その中で 20 万人以上の都市が中心になって中核市となって、長野で言えば、3 市 4 町 2 村の相乗効果としてまちづくりをしていく中核を担うわけですよ。今までであれば、長野市単独の基本的な理念や構想でいいと思うのですが、これからは一歩外へ出た周辺との連携ということも考えていったときに、現実問題として、須坂市から 403 号と 406 号を渡って長野に職を求めて、いわゆる職場に来る人が昼間人口として何千人というわけですよ。長野市から須坂市に行くのは、約その半分以下くらいしかいない。周辺の広域を巻き込んで、長野市は昼間人口が増えるので、昼間の人口流入と夜間の人口流出はかなりの差が都市構造上出てきます。そういう意味では、須坂市がどうだ、中野市はどうだということではなくて、時代の潮流という表現がこの中にありますけれど、これからは一歩外に出てそういう観点での、広い意味での長野市の有り様というものを、もっと存在意義を深くしていてもいいのかなと、それが一つ理念の中に反映されてもいいのかなという気もします。

○事務局 当然そういった考え方も将来を見据えたときに必要だと思います。先ほどの 9 ページにこれから書き込んでいく形で、マスタープランの 1 ページですが、長野市の中でも拠点性をうたって、こういった拠点を作りそれをネットワークにするというような話の組み立てがあります。当然この中に、この図で示すとおり長野市だけではなくて、全体を含んで、また周りについても、ある程度それぞれの拠点をどのように結んでというような話の

組み立ては、今後検討していくべきものだと思いますので、そういった中で検討していきたいと考えております。

○部会長　　今の段階では方向性を議論していればいいわけですから、今ご指摘のあった広域市町村連携についてもこの中で検討して入れていくべきだという意見は頂きましたので、それは今後どういう形で入れていくのかということも含めて考えていきたいと思っております。ありがとうございます。ご発言の際はできるだけマイクを使ってください。議事録を後で取る側が多分苦勞されると思うので。今日の会議の冒頭でも申し上げました、ここの議論が一番重要なので、普段は頂いた資料を見ると非常に上手くに出来ているので、なんとなくこれでいいかとなりますが、普段お考えになっていて、もっとこうだったらいいのになという思いをここで是非お話いただければと思います。

○委員　　一つ、2ページの下段にも、中山間地域などでの地域の担い手の不足ということが課題で書いてありますけれど、いずれにいたしましても、長野市は大合併を繰り返して、4分の3が中山間地域となります。水の面、環境の面、全てにおいて中山間地域の恩恵を被っているのが、市街地に住んでいる住民ですよ。その中山間地域が、現況えらいことになってきているのです。このまま放っておくと、中山間地域は壊滅的な状況に陥るようなことになりつつあります。そうした場合に長野市の都市計画作りの中で相当のスペースを中山間地域について考えうたっていないと、今の長野市は守れないということになると思うので、その辺への突っ込みなり、考え方なりがなかなかこういうところに出てこないですよ。それは私とすれば心配で、例えば若い人達が、私は今更北に住んでおりますけれど、更北地区が今人口が急激に増加していますけれども、その大多数は西山地域の若い人達が下に降りてきて家を建てて、そこで子供が生まれて学校もパンク状態になりつつあるわけです。その見返りとして中山間地域はお年寄りだけが残ってしまい、猛烈な高齢化が中山間地域には出ているわけで、それが長野市を取り巻く全ての周囲に、若穂なり西山にしても全てそういうものが囲まれていて長野市が形成されているということになるので、そういうことを考えますと相当な資金なり、考え方なりをそこに組み込んでいかないといけないと思っております。加藤市長が市長になったときに言われた「なんとかします、中山間地域」と言っても、それが言葉だけで踊っていて、なかなかこういう計画の中に出てこないということが私としても心配なので、是非、具体的なことはどうするかということは今後の課題だと思いますけれど、中山間地域についてはもう少し全体で考える場を大きくしてもらいたいと要望します。

○部会長　　方向性としては本当に難しく、人口が減って、市全体が小さくなる。そして公共施設の維持・管理という点から言っても、予算規模が小さくなるという点から言っても、とにかくコンパクトにして、まちをぎゅっと凝縮しなくてはいけない。でも、中山間地域をどうやってそこに住んでいる人達の生活をどうやって確保していくのか、という二面性が長野の場合は絶対必要なので、当然中心市街地のことだけを考えてコンパクトにして人を集めればよいとは思ってはいないはずなので、実際に中山間地域に住んでらっしゃる方が

こういう方向性だったら自分達も安心していられると思っていけるのか、というのを皆さんのお知恵を拝借しながら、事務局と一緒にこれから時間をかけて作って行かなければいけない非常に重い課題だろうと思います。切り捨てることはないということだと思います。はい、どうぞ。

○委員 私も先ほどまでのお話に非常に賛同するところがあります。一つ前の説明でいただいた資料の現状と課題の整理の 26 ページ、27 ページの将来高齢人口の比率でも、市街化区域や都市計画区域の外側に非常に広く広がって将来高齢人口が大きくなっていて、比率的に大きくなっている所と、中山間地域が重なる所があるのではないかなという気がしています。特に防災の部分や水源地の部分、あるいは公共交通についてもそうですけれど、そういったところで、中心市街地の話とは別に外側のカバー率に入らない所を、資料 2 の 8 ページの二つ目では、「自然を活かした」という形になっているのですが、「活かした」というよりもそこは防災的な観点から守っておかないと後々大変なことになるという部分なので、都市計画の方向性にはっきりと、切り捨てるつもりではないということよりも、むしろ積極的に入れ込んでいってほしいという感じを聞いていて受けました。今の段階の目標や理念にはあまり反映されている気がしないという印象を受けたので、こちらで述べさせていただきます。

○部会長 まさに都市計画区域内の市街地エリア、D I D 区域に住んでいる人達の生活は周辺部によって支えられている、と言うことをしっかり意識してということで、単に自然を守ればよいということではないというご指摘だと思います。はい、どうぞ。

○委員 今新しく提起された目標で「誰もが住みやすく動きやすい」というのは、なんとなくいいのですが、どうしてもコンパクトシティにこだわってしまうところがあると思います。元々、先ほど部会長もおっしゃった人口密度の問題と言うのは、40 人/ha というのは長野県においては大変高い水準なんですよね。そもそも達成が非常に苦しい状況でずっと来ていて、みんな苦勞されて都市づくりをやっておりまして、そう意味では私は、先ほどの資料の中に 40 人とかの数字の指標があったのですが、40 人にこだわりすぎると、結果的に作るものが、最後はどこかに集中すればそれが達成できるというようなことを言って、周りが薄められてしまうということになってしまわないのかなという危惧があります。そういう意味で「誰もが住みやすく動きやすい」というのは、意味としてはそれで理解するのですが、私はそういう表現より、「どこでも住みやすい」というような意味合いの、都市部から中山間地域まで市民が住みやすいまちづくりをどうやって作るのかというような観点での目標を明文化しないと、周りの文章から見るとという感じにもなってしまうし、一方ではそうやりながら都市の人口もまた増えていくということを解決できない状態で行くわけですよね。政策との兼ね合いもありますけれど、もう少し思い切った表現が出来ないのかなと思います。特に自動車依存という問題は理解しますけれども、中山間地域の周辺地域の問題から見ると、自動車の問題をまったく見ないということは不可能ですから、どうやって自動車の依存率を

低めるかという問題の目標や、あるいは自動車に乗らなくてもいい生活ができますというような目標を掲げていかないと、皆さんが共感しにくいのではないかなという感じがしました。それも意見として、それからもう一つ。頂いた資料2の1ページの中で市街地の緑の問題という問題があったのですが、これも都市計画課の立場としては理解しますが、はたして公園や広場が緑の比率だけで議論してもいいのか思いました。先ほど言ったまちづくりという観点で見たときに、公園や広場がどうやって利用されているかというようなものも入れていかないと、今は市の公園の作り方も変わってきている気はしますけれど、もっと利用されるのか、まちの中であって公園がまちにとって非常に活力と言いますか、良い場になるような公園作りをやっていったほうがいいと思うので、そう意味では緑被率だけの表現で論じるのは、もう少しどうにかできないかなという気がします。それ以外のことも含めて、数値的なデータについてはこれで理解出来なくはないのですが、もう少し長野市さんでもいろいろなことをやられていると思うので、まちづくりの目標と合致するような事例と言いますか、こうやってまちづくりをしていきたいと思いますというようなイメージを併記して、そこにさっきの中山間地域の問題もこういうことでどうでしょうかということが提起できると、もう少し皆さんの受け止め方が分かりやすくなるのかなという感じがしました。できればまちづくりの目標と共にイメージを示してもらえるとより分かりやすくなって、先ほどの目標を整理していく場合も、整理がしやすくなるのではないかと思います。よろしくお願いします。

○事務局 おっしゃるとおりだと思います。基本的にどういった形でやっていくかという、この理念と目標があって、次に進む地域別の議論になってきたときに、このところはこうしましょうというような提案を出しながらまとめていくような形になります。それが先で、その後こっちというのはなかなか難しいので、まずは理念・目標をこのような方向で考えていただきたいとご理解いただければいいかと思います。よろしくお願いします。

○部会長 「中心市街地」というと分かりやすいのですが、「周辺部」とか「郊外」と言っていると、それが要するに中山間地域のことを言っているのか、それとも市街化区域の内側の縁辺部を言っているのか、市街化調整区域のエリアを言っているのか、それとも都市計画区域外のエリアで開発が頻繁に行われている所を言っているのか、非常に混乱を招く部分もあると思います。言い方を整理しておかないと、コンパクトシティ化して郊外の開発を抑制して中心部に集めましょうと言ったときに、それは山から高齢者みんなに街中に下りて来いと言っているのかという議論になってしまうと、訳が分からなくなってしまうので、そうではないということをどこかで上手く整理する方法をお考えいただけないと、人によって捉え方が違っていたりすると訳の分からない議論になってしまうので、今後考えて行きたいと思います。適当な言葉があればいいのかもしれませんが。後は、はい、どうぞ。

○委員 質問をさせていただきたいと思います。資料2の2ページの今の中山間地域の話です。小さな拠点による活性化の必要性がうたわれていますけれども、ここで言う「小さな拠点」というのは、どの辺りのことを、例えば規模とかを念頭に置かれているのかをお

聞きしたいと思ひまして質問をしました。いかがでしょうか。

○事務局 私からお答えします。小さな拠点の考え方としますと、今、国でも示されておりますけれども、長野市で言えば中山間地域とかそういった地域で、「小さな拠点」というその言葉にあるその「拠点」の位置を一番気にされるというか、そこに目が行ってしまうかもしれませんが、基本的にはその周辺を支える生活圏が、まずどれくらいの規模で、どのくらいの人口があってというような考え方から、中山間地域で暮らしに不便にならないための施設だったり、物が集められる、もしくは交通網でそれを支えていくというような形でやっていきます。そういった地域がどこかという、それはまた検討して、この辺りが小さな拠点でやっていけるのではないかとということ在地勢的なものだったり、人口の集積だったり、施設（例えば公共施設）がどの程度が元々整備されているかとか、そういうことを考慮しながら決めていくところではないかなと考えております。ただ、人材的な部分で高齢化がかなり進んでいる所をどうやって支えていくかは、これからの課題かなというのは感じております。

○委員 人口規模的に言うとどれくらいのことを考えてらっしゃいますか。

○事務局 具体的な人口規模ということでは、今は考えておりません。前のマスタープランの中でも、一応生活拠点という位置付けで中山間地域で支所を中心とした区域等で捉えて、生活拠点についてはこういう整備がいいのではないかとということやうたってございます。それを小さな拠点というようなことで、今度はその地域に住んでいただいて、地域コミュニティが維持できるような仕組みを作りましょうということが一つ、小さな拠点の意味合いですので、人口規模というよりも、今中山間地域で人口が減ってきている所の定住人口を減らさないように維持しながら、コミュニティの維持もしていきたいといった地域をやりたいということでございます。

○委員 ありがとうございます。議論されていた中で、中山間地域対策どう考えるのかということですが、国の国土グランドデザイン2050では小さな拠点は約人口1,000人くらいということで、例えば長野市だと旧行政村の大岡が今は1,000人ですよ。例えば、集落レベルで考えてみると、大岡には集落が19くらいあって、1集落あたり9とかそれくらいの世帯で、小さな拠点と言っても、非常に広範囲に小さな集落が谷沿いに形成されているような所をどうするのかということも非常に難しいところがあると思ひますけれども、それらのことも国とすれば基本的にコンパクトシティというのは中心に人口を、そして低人口密度地域を出来るだけ削減するような中で、財政もなんとか厳しい中で対応していこうという方針でしょうけれども、本当に小さな拠点を中心とした中山間地域の体制と言うのでしょうか、人口定住を、サステイナブルなコミュニティをどう作っていくのか、どういう形で住民をサポートするのか、あるいは自治というものを担保していくのかということが、この都市マスタープランの中でも少したわられていくといいのではないかと思ひました。今回、三つ目に加えましたが、前回までは地域の自治なり地域主体のことが5番目にうたわれてい

て、それが一つの長野市の都市内分権という非常に特徴的な自治のあり方を反映したような形だったわけですが、それが三つ目に合体したことで若干見えなくなったかなと思うところがあります。中山間地域というのは基本的には国家もそうでしょうけれど、それほど基盤整備もハード整備も出来るようなところではないわけですので、何か違う論理でそこをサポートしたり、住民の人達の力をエンパワーメントできるようなものをそこに仕組みだとかそういうものを提案していかないと残っていかないとだと思います。当然公共交通をそこまで延ばすとか、様々な財政的な措置を平均的に中心市街地と同じような形でできるということでは全くないわけですので、そこをどんな形でやるのかということ踏まえた形のマスタープランが、これだけ中山間地域の多い長野市にはあってしかるべきなのかなと思いました。財政的な措置は出来ないわけですね。コンパクトと言ったときには、やっぱり中心市街地中心なので、長野市にはそれだけたくさんの中山間地域があるわけだから、それに対してはこういう形で対応するのだという前向きな予算はないんだけど仕組みだとか、あるいは交流人口の拡大だとかそういう中でそこは非常に重要であるので、人口は減少していきだろうけれども、そこでのサステナビリティだとかは担保するとうたう必要があるのではないかと思います。

○事務局 今のおっしゃるとおりですね、都市計画マスタープラン今回改定にあたりまして、立地適正化計画は市街化区域の中だけの話なので、周りはどうするんだということは非常に言われているところで、以前は生活拠点ということで中山間地域の部分がある程度書いてはいますけれども、今度は先ほど言われたとおり、小さな拠点といった地域運営の仕組み作りのようなものをどう書いていくかということだと思います。都市計画マスタープランだけの中で全部うたえるかと言ったら、それは難しい話で、都市サイドとして書けるところは書いていきたいと思います。中山間地域の位置については広く他の他部局と全部の中でできるのかなと思ってます。できるだけ都市のマスタープランの中でもそんなことを書きながら、周りも巻き込んでいくような形ができるようなものにしていきたいと思っております。

○部会長 はい、どうぞ。

○委員 6ページ目の上段のところなんです、「マスタープランに掲げた都市づくりの理念、目標などについても進捗はしているものの項目によっては達成状況が思わしくなかったり、途上のもの、さらに具体的な取組みが必要なものなどがある」ということが記載されているのですが、もう少し説明をいただければお願いします。

○部会長 現状の分析をもう少しやってくれという質問ですね。

○委員 優先順位だとか、課題の形状みたいなものが分かりにくいのでお聞きしたいと思いました。

○部会長 今、すぐできますか。

○事務局 すぐはちょっと出てこないですね。

○部会長 今すぐはできない。次回までの宿題にさせてくれということでしょうか。

○事務局 資料で細かく出すことは出来ないのですが、次回お示しするような形で、前々回少しだけ小出しに出ささせていただいた資料もあるのですが、一覧表にしたものがございませぬ。それもまたマスタープランの検証ということで私どもでまとめた資料がありますので、それをまた皆さんにご提示させていただくということによろしいでしょうか。申し訳ありません。

○部会長 どうしてもこの場で資料等がなかったり、うまく説明できなかったりして次回持ち越しというのは前回もありましたし、それは仕様が無いので、そういうことでお願いいたします。はい、どうぞ。

○委員 基本的なところで申し訳ないですけれども、8ページにマスタープランの「理念」というものがあって、その下に「目標」というものがありますけれども、理念と目標の関係が今一、自分だったら理念があってその理念を実現するための目標と言う形で落とすかなと思うのですが、広範囲にわたっているせいか、あまりリンクしている感じを受けないのですが、その辺はどうなのかなということが一つ。それから、目標1の一番下に「自動車依存からの脱却」という文言が見えますけれども、ちょうど今東京モーターショーがあったりして自動運転とか、都市の交通が非常に20年後に向けては大きく変わる過渡期であると思います。そうすると公共交通の機関の仕組みや在り方も大きくこの20年で変わるでしょうし、個人が車を所有すると言うよりは、カーシェアリングで必要なときに車がくるというような形で、中山間地域の人でも市街地に住む人も自分の移動をより自由に担保できるような社会が20年後には来ていて欲しいと思うのですが、長野市として先駆けてそういう方向へまちを動かしていくような選択を取っていただけると、中山間地域の人々の移動も担保できるし、街中で混雑して駐車場がなくてお買い物に行きにくいってこともないでしょうし、そういう問題が大きく変わりそうなので、この辺は結構力を入れて、「見通す」は難しいと思うのですが、できればその辺をよく考えていきたいと思っております。後は、消費をするときにコンピュータの前でほとんどが済んでしまうんですね、現状自分にしても。体験型の消費、例えばサービスを具体的に自分の体に受けること以外はほぼいらぬんですよ、店舗なんて。洋服買うのも、食品を買うのも、映画を観るのも、人が人と直接的に会って何か体験をする、例えば空気を感ずるとか、そういう体験以外は商品の外お店なんか全然いらぬくなるというような状態に近いのが、20年くらいしたら来るような気がします。その辺のことも考えつつ、5年先というマスタープランではないので、20年先に耐えうるような長野市らしいマスタープランが欲しいと思いました。話が飛びますけれど、交流人口を増やすのであれば、世界の中で長野という立ち位置をどう考えるかというのがとても大事になってくると思うので、もう少し積極的に、例えばオリンピック施設の活用であるとか、長野にしかないものはほとんど、多分あまりないと思うんですよ。どこに行っても山もあるし、村もあるし、農産物もある。同じ様な所でいろいろな地方の都市と競争していく中では強みになるところをしっかりと見据

えて、それに注力をしていかないと埋没して難しいかなと思います。

○部会長　　今のご指摘に関しては、すぐに答えるのは難しいと思います。何かお考えがあればあれですけれど、20年先にどうあるべきかという視点は入れるべきだというのはそのとおりなんですよね。その時の消費生活がどうなっているかというのが今おっしゃったようにすべてをネットでやっている社会になっているかどうなのかということは、今は何とも言えない。そうすると、住んでいる人にとってのコミュニケーションは唯一宅配便のお兄さんということになる社会ですよね、イメージ的には。それが長野にとっていいのかよくないのかということも含めて考えなくてはいけない部分も我々にはあります。何かありますか。

○事務局　　非常に難しいのですけれども、都市像を示す中でそういった切り口もあるのかもしれませんが、今回のマスタープランの改定の中においてどこまで入れるのかはなかなか難しいところもございます。あくまでも今都市の抱える問題の中で、人口減少の中でそれが加速度的になってきているといった中で、どういった都市像にしていくかというテーマが一つ大きなテーマとしてあるかと思いますので、できればそういった切り口の中で今おっしゃられたものがある程度盛り込めればとは思いますが、もう少し検討させていただきたいかなと思います。ただ、交通等に関しては当然マスタープランにも盛り込みますけれども、交通は交通サイドの公共交通で形成計画等々も出来上がってくる状況となっております。ですから、一つだけのマスタープランで全部まかなえるということではなくて、様々な計画の中で長野市の全体の都市像を見せていくというようなことで考えております。よろしくお願ひしたいと思います。

○部会長　　3時半までという時間を過ぎてしまってすみません。コントロールが上手くできなくて。将来的なという方向で言うと、私としては地球温暖化の問題は誰も逃れることができない課題で、人口減少と地球温暖化という問題は誰も逃れることができないと考えています。地球温暖化に対する対策としては2050年までに現状マイナス80%あるいは85%、つまり、今のエネルギー消費を5分の1くらいにしなければならぬというのは、もはや逃れようがないことだと思います。自動車に依存しないということの一つは自動車が20%以上のCO2を出しているという今の現状を考えれば、もし、自動車の利便性を今と同じ様に置いておこうとすると、仮に燃費が倍になったとしても、自動車以外の他のものを、それこそ本当に0に近くしていかなければならなくなるので、はたして自動車にそこまでエネルギーを使うことを許せるのかということ、多分許せない。だから、やっぱり移動の手段は認めるけれど、自動車でなければ移動できないものを除いて、いかにして低炭素化にするかというのは、そのためには道路であるとか、まちづくりがどうしても必要なもので、そのことを考えればコンパクトシティというのはある程度はやむを得ないだろうなと私は考えていて、前回のマスタープランの時からコンパクトなまちづくりということを行っているわけです。総合計画にもそのようなことは書いてあるわけで、ところが10年くらい経って市街地は集中したのかというと、ちっとも集中していないという現実もあるわけですから、今回のマスタープランに関

しては、議長というよりは一委員として今発言をしておりますけれども、私としては、今回のこの方法でこのマスタープランがあれば、本当に今後10年あるいは20年後には完全に長野市はコンパクト化すると、少なくとも市街化区域エリアくらい、あるいは市街化調整区域、あるいはもう少し広げて都市計画区域外の縁辺部のあたりまではぎゅっとまちの中に集まってくると、それで低炭素化に寄与できているというのが見えるようなものにしないと本当に長野市は将来ないと考えています。皆さんがそれに対して賛同いただけるかいただけないかは別として、一委員としては考えていますので、私としては是非そんなことも頭に入れながらこれからの検討をしていただければありがたいと思っております。すみません、今のは一委員ですからね、議長ではなく。後、何か構成のことで、今かなり相当の重い話が出ていて、大変だろうなということをつくづく思っておりますけれど。はい、どうぞ。

○委員 議長さんや他の委員さんからも出たように、基本的な理念・目標はこういう形で収まるんだろうなというのは承知はしていますけれど、そこから一步議論を進めていく中で、今ほどまで出ているように、やはり先ほども委員さんから出ましたが、目標の達成度についてのフォローアップをきちっとしていく、先ほど6ページの中の、いわゆる出来高に対する検証を次回宿題ということにはなってますけれども、私は長く民間に生きていた人間なので目標というのは数値だと教育をされてしまっているの、これは提案ですが、これから進めていく議論の中では数値の目標を作れるものは目標の数値を作ったほうが、それに対するフォローアップは確実に出来るのではないかなと思っております。図と文面だけで追って行って、この到達度はどうなんだと言っても、なかなか検証できなくなってくると思います。先ほどの委員さんの話のように、これからは全てパソコンのようになって数値を求められる時代でもあるし、数値を判断する時代にもなってくるので、目標数値を設定できるものは何らかの形で数値を作って行くほうが、その達成度とフォローアップは楽なんじゃないかなという気もするので、これは提案です。

○部会長 これはできるだけ数値で示してくれと、定性的なものではなくて数値で出せるものは出していただきたいということでございます。後はよろしいでしょうか。はい。

○委員 私は五つの目標が今回三つになって、大変哲学的な表現になって、いろいろなことを広く言えると理解をしていいなと思っております。ものすごく当たり前のことですが、この委員会が始まる前に何か一番大切なことを忘れていないかしらと思ったので見ているのですが、やはり主役がいつも市民ですので、こうして難しい資料を見せていただくと、忘れはしないのですが、方向がどこかへ行ってしまふときがあるので、都市計画マスタープランというのが何のためにあるのかということを見ると、とても大事なことなので、すごく当たり前のことを忘れないで拾っていく。全ての市民の人のことを考えているんだというメッセージが届くようなことが必要かなと思いました。以上です。

○部会長 「全て」とおっしゃっている意味はまさに高齢者であったり、障害があったり、中山間地域では周りに人があまりいないような人も含めて「全ての人」。もちろん、市

街地に住んでいる人も含めて。これも私はいろいろな所のこういう計画に関わらせていただいて、いつも言っているのですが、特に最終的にできる概要版に関してはそういうことを意識していただいて、厚い冊子全部を読む人はなかなかいないけれど、概要版は比較的読みやすいので、概要版についてはなるべく平易な言葉で方向性が分かるような、ひょっとしたらあまり数字にこだわらないほうがそこはいいかもしれないというようなことも含めて、是非ご検討いただければと思います。だいぶ時間が過ぎてしまいましたが、よろしいでしょうか。まだ、今日話しておかなければいけないことが少しだけ残っておりますので、今日相当な意見が出ていますので、大体これでいいですねというところではないと思いますので、今の議論を受けていただいて、次回以降、今日の資料を修正していただきながら、また提示していただければと思います。よろしく申し上げます。では、市民アンケート調査ということで事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 お手元の資料の資料3-1と資料3-2をご覧ください。事務局で市民アンケート調査を計画してございます。実施計画の概要ですが、12月下旬から1月下旬に長野市全域を対象としまして、標本抽出6000通、電子回答と郵送を併用するような形で考えてございます。資料3-2について、今考えておりますアンケートのアンケート票の案をお配りしているところですが、基本的には前回のマスタープランの時にやったアンケートの部分そのまま使うことで、時系列的な評価ができるという観点もありますので、前回と同じ文言を使っているものもありますし、それ以外にも、今回の立地適正化計画の関係で特に必要だろうということで、問14のようななどのような形で市民の生活が公共交通を含めて動いているのかというようなことを出来るだけ把握できるような形で新しく入れた質問などもございます。委員の皆様には、この資料についてはここで議論するというわけではなくて、お持ち帰りをいただきましてお気づきの点等ございましたら、資料3-1の裏面になりますが、11月末をめどに事務局に直接ご意見等頂戴できればと考えております。よろしく願いいたします。アンケートについては以上です。

○部会長 資料3-2に実際にアンケートが付いてますので、一番いいのは皆さんが実際にやってみられて、これ何を言っているのか分からないということがあれば、ここにいらっしゃる方が分からなければ、絶対に駄目ですから、それが一番いいかと思います。よろしいですか。11月末までに事務局に直接ここはこうしたほうがいいのかというようなことで投げてください。本日の議事について、予定していた議事は以上なんですけど、全体を通して何かご質問・ご意見などあれば、はい、どうぞ。

○委員 今回のアンケートの資料3-1ですけれども、サンプル数が標本抽出で6,000で、目標回収率が40%ですけれども、この40%というのはかなり低いと思うのですが、何でこんなに低い設定をされているのか、どういう形で回収を、例えば催促を何回くらいやろうとしているのか、回収率はできるだけ高いほうが意味がある数字が出てくるわけですけれども、それで標本抽出6000通というのは非常に数が多いのですが、なぜ数を多くして回収率を

これだけ低く設定しているのか教えてください。

○事務局 こちらのサンプル数なんですが、参考にしている数字が前回のアンケート調査の数字になっております。今、パーソントリップ調査などの調査関係も、郵送で送っているものについての回収率が30%を切っているような状況もありまして、督促して出している方というのを入れての数字となります。督促はパーソントリップ調査では、1回か2回くらいは入れてはいますけれども、郵送によるものという結構お読みいただけない、それ以前に捨てられてしまうということもございますので、前回の数字と同等ということで40%を使っております。

○委員 かなり40%だと信頼度が落ちるといえるか、あまり意味がない調査になってしまうのではないかなと思います。回収率をできるだけ60%、70%くらいに上げていくような努力を、最初から目標を低くしないで、できるだけ高くして、そこになるように努力をするということで、業者に委託をするにしてもそここのところの設定を高くすると、そして精度を上げるということを要求するべきだと思いますし、そうじゃないと、せっかくやった調査が意味のないものになってしまうのではないかと思います。有効回収で4割ですけれども、回答のなかった6割の人も分析しておられるんだらうとは思いますが、かなり偏った数字になってしまうと思いますので、努力していただきたいと思います。いきなり目標回収率40%だと厳しいと思います。私、社会調査を授業でやっていて、回収率40%だとほぼ意味がないよという話しをしているので、ここでこれを通すわけにはいかないの、よろしくお願いしたいと思います。

○事務局 分かりました。工夫してやってみたいと思います。他のアンケート調査でも、回収率を上げる工夫をしている例もありますのでそれを参考にやっていきたいと思えます。ありがとうございます。

○部会長 長野は国勢調査のときには電子回答率ってどれくらいだったんでしょうか。

○事務局 すみません、電子回答率は分からないんですが。

○部会長 例えばそれがある程度以上見込まれるのであれば、封筒を開けなくてもここに行けば回答できるよというので電子回答にあえて封筒の外側ですでに誘導してしまうということ、電子回答を誘導するという手もあるかもしれない。

○事務局 はい、その辺も参考にさせていただきます。

○部会長 ご検討ください。ありがとうございます。他には何かございますか。よろしいでしょうか。すみません、時間を20分以上遅くなってしまいました。これで議事を終わりにさせていただいて、進行を事務局にお返しいたします。

◎その他

○司会 高木部会長、誠にありがとうございました。次に、4 その他ということで、次回の日程についてお願いいたしたいと思います。次回開催日は11月下旬頃に開催したいと考えております。つきましては、大変恐縮ではございますが11月25日水曜日になるのですが、午前に開催したいと存じます。誠に勝手ではございますが、よろしく願いいたします。また、準備ができましたら、時間、場所等を改めてご通知をいたしますので、日程の調整をお願いしたいと存じます。また、その時には本日の宿題につきましても、整理いたしましてお示しできればと思っております。よろしく願いいたします。

◎閉会

○司会 委員の皆様には、大変お忙しい中ご出席をいただきありがとうございました。また、ただいまは熱心にご議論をいただき、感謝申し上げます。それでは、以上をもちまして第3回都市計画マスタープラン改定専門部会を閉会とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。なお、この会場は4時までとなっております。